

令和 2 年 9 月 16 日現在

機関番号：72644

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K13541

研究課題名（和文）近世後期雲伯地域の経済活動に関する基礎的研究

研究課題名（英文）Basic Research about Economic Activity at San'in Region in 19th Century

研究代表者

下向井 紀彦（Shimomukai, Norihiko）

公益財団法人三井文庫・社会経済史研究室・主任研究員

研究者番号：70625657

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、鳥取（伯耆）・島根（出雲）の藩境域において如何なる経済活動・交流があり、また中央市場との関係の中で如何に変容していったのかを明らかにすることを目的とした。本研究では、まず三井越後屋の史料から越後屋の山陰木綿（雲伯木綿）の仕入と上方輸送に関する史料の整理・分析を行い、次に出雲（島根）東部と伯耆（鳥取）西部（以下、「雲伯」）の在地商人史料から主に木綿や鉄の流通に関する史料の調査・収集・整理を行った。これら在地商人の史料と三井越後屋の史料を組み合わせ、鳥取・島根の藩境域における産物の流通や経済活動を検討することができた。また、雲伯木綿の上方輸送の具体像も明らかにすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の特色は、地方から上方への商品流通、それに関わる地方商人の活動、上方の商業資本による地方からの商品仕入、地方での活動等を通じて、藩境域における経済活動や上方と地方との関わりを双方向から明らかにしていくことにある。本研究では、それぞれ個別に扱われていた中央市場と地方との研究を有機的に結びつけ、近世日本の市場構造、流通構造、地域社会を総合的に明らかにする一助となる点において、意義のあるものといえる。

研究成果の概要（英文）：In this study, I investigated a distribution of cotton fabric at San'in-Region in the 19th century. This study is summarized in three points. (1) I searched for historical materials about purchase and sale of cotton fabric in San'in-Region. (2) I searched for historical materials about transportation of cotton fabric from San'in-Region to Kyoto-Osaka area. (3) As a result, I was able to present a circulation of cotton fabric from San'in-Region to Kyoto-Osaka area.

研究分野：日本近世史

キーワード：三井越後屋 山陰 島根 鳥取 木綿 鉄

### 1. 研究開始当初の背景

申請者は、科研費「近世後期の地方商人と三都商業資本に関する基礎的研究」(若手研究 B、26770236、平成 26 年度～28 年度)において、鳥取(伯耆)を事例に三都商業資本(三井越後屋)の地方展開と在地商人の商業活動との関係性について史料調査・収集・分析を行った。三井は伯耆において、西紙屋という商人を買宿(現地での仕入代行商人、前貸しによる都市商業資本との関係を構築)に任じて木綿の直仕入を行っていた。そのため、三井文庫所蔵史料中に伯耆での仕入関係史料が豊富に残っている。また、買宿西紙屋の史料は鳥取県立博物館に収蔵されている。伯耆は三井の現地での仕入活動を詳細に追うことのできる好適地であった。さらに木綿の生産地・集荷地である米子や境港には商家史料も少なからず残っており、木綿の生産・流通に関する在地商人の経済活動の実態を明らかにすることのできる場所でもあった。これらを用いて、現地での在地商人との関係、在地商人との競合による仕入体制転換、藩専売制実施にともなう三井の仕入中止とその対応等について具体的に明らかにしてきた。

この作業の中で、隣領である出雲の安来商人や播磨(兵庫)商人が鳥取領内に入り込んで商業活動を行い、伯耆の在地商人と米子周辺地域で競合していることや、三井が仕入金を現地調達するために雲伯地域の商人の上方送金を為替で引き受けていたこともみえてきた。三井が伯耆に入り込んで木綿を仕入れ、上方に送ることによって、地域経済の活性化に少なからず影響を与えていたのである。しかし、三井や買宿西紙屋、米子・境港の商家の史料は、伯耆側からの視点であり、逆の出雲側の商家史料や藩政史料を通してその実態や具体像について解明するには至らなかった。

三井は出雲(島根)の平田にも買宿を置いており、出雲における木綿の仕入拠点としていた。伯耆とは対照的に、出雲での仕入に関する三井関係の史料は少なく、三井の出雲における木綿仕入の具体像、出雲での木綿生産・流通の実態は未解明な点が多い。

ひるがえって、藩領域に関する経済活動に注目してみると、藩ごとに研究が進められており、様々な地方史研究や自治体史等によって、その実態が明らかにされてきた。そこでは、領内における経済活動や流通活動、中央市場との関係について述べられているものの、境域における双方向の商人による経済活動や境域全体を見通した地域経済を具体的に論じるものは多くない。本研究で事例とする雲伯地域においても、『新修米子市史』等の自治体史において安来商人や播州商人が領内に入り込んで経済活動を行っている事例を紹介しているものの、具体的な活動の内容や、米子側の対抗措置等について具体化する余地は残されている。また、領外から入り込んできた商人の経済活動によって領内商人の蒙った影響について、史料に基づいて説明されるものの、領外商人の活動自体が地域経済に与えた影響などについてはあまり考慮されてきていない。木綿の生産や流通に注目してみても、雲伯地域の領域を越えた双方向の商業活動があったと思われるが、その具体的な活動について不明な点が多い。さらに、本研究の対象とする雲伯の境域には伯耆の米子、出雲の安来という二つの主要港がわずか 10km ほどの距離で近接しており、すぐ北には鳥取藩の主要港・境港、西には松江藩の城下町・松江があった。これら双方の経済活動が如何に影響しあっていたのか、具体的に検討する余地があった。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、以上のような問題関心に基つき、藩の境界を越えた地域の流通構造や商業活動の実態、在地商人の活動や中央市場との関係の中で生じる変化などを明らかにしようとするものであった。

第一に、18 世紀後半から 19 世紀中盤にかけて、雲伯地域で生産される木綿や鉄などの国産品がどのように集荷・移出されるのかを明らかにしようとした。ここでは、産物の集荷から領外移出・大坂への積み登せにいたるまで、商業活動および資金調達や為替取組などの金融活動についての実態解明を目指した。

第二に、三井および三井の買宿を通して、中央市場と地域市場とのかかわりや影響を明らかにしようとした。これまでの研究対象であった伯耆での木綿生産・流通に加え、本研究では出雲木綿の仕入・流通の具体像を加味した上で、中央市場(ここでは特に京・大坂)における雲伯地域の産物の位置付けや、地域で展開していた経済活動との関わり、藩権力の関与や影響について、三井関係の史料から明らかにしようとするものであった。そして、これらを踏まえて近世後期日本における市場構造・流通構造・地域社会の実態と変容を明らかにしようとするものであった。

### 3. 研究の方法

上記の目的を達成するためには、現地における史料調査が欠かせなかった。本研究では、まず、鳥取・島根の国産品生産地、集荷地での生産・流通関連史料の調査・収集・整理を行い、特に、近世雲伯地域の主要産物である木綿に関するものを主軸にすえた(雲伯木綿は三井の京都の仕入店における主力の木綿でもある)。また、鳥取・島根の重要産品である鉄・紙などを扱っている生産者や商人についても、木綿同様の調査・収集・研究を行い、在地商業活動の全容把握のための材料とした。本研究においては、国産品の生産・流通に関する町・村役人史料、商家史料を重点的に調査・収集した。

次に、これらの調査・整理した史料を分析して、現地における商品流通の実態解明を試みた。

これまでの申請者の研究では、三都商業資本（ここでは三井）が在地商人から受けた影響や、在地商人による現地と上方との流通活動に三井が金融面で関与していることなどを明らかにしてきた。本研究ではこの成果に基づき、境域を越えた在地商人の活動が地域社会に与えた影響、中央市場との関わりが在地商人の活動に与えた影響等に注目して史料の分析を進めた。

#### 4．研究成果

##### (1) 2017 年度

平成 29 年度は鳥取の史料調査・収集を行い、島根の史料調査に向けた準備を進めた。鳥取については、米子市立山陰歴史館の所蔵史料を重点的に調査し、商業・地域経済に関する史料の撮影・整理・翻刻作業等を行った。また、境港市民図書館において郷土文献の調査を行い、境港市史編さん室において現地の史料状況の確認、市内所在史料の調査記録の閲覧、今後の史料調査の相談を行った。以上の調査で収集した史料・文献を読み込んで、米子・境港周辺地域の商人の状況把握と、商業活動や町方の商業政策の実態解明に向けた研究を進めた。

島根については、公益財団法人三井文庫に所蔵している史料の中から、鳥取・島根の木綿仕入に関する未読史料の翻刻・データ化と史料の読み込みを進めた。これを踏まえて島根県古代文化センターの研究会にて三井の雲伯木綿仕入についての研究報告を行い、同センターの協力を得て雲州木綿に関する史料の所在確認を行った。また、島根県立図書館にて文献や史料目録の調査を行い、次年度の調査に向けた準備を進めた。

##### (2) 2018 年度

平成 30 年度は島根の史料調査・収集を重点的に行った。本年度は島根県立図書館郷土資料室、島根県立古代出雲歴史博物館で史料調査を複数回実施し、島根における商業活動・流通に関する史料の撮影・整理・翻刻作業等を行った。また、三井越後屋の雲州木綿の仕入拠点であった出雲市平田で、雲州木綿関係史料の調査を実施し、個人宅において史料状況の把握や聞き取りを行った。なお、島根県立古代出雲歴史博物館では調査の一環として、木綿商人に関する史料整理・目録作成にも協力した。以上の調査で収集した史料・文献を読み込んで、出雲地方における木綿商人の活動や町方の商業政策の実態解明に向けた研究を進めた。また、出雲産品として木綿とともに重要な鉄に関する史料調査も新たに実施した。鉄については奥出雲において史料調査を実施し、生産・流通に関する史料の撮影・整理・翻刻作業等を行った。

##### (3) 2019 年度

令和元年度は前年度に引き続き島根の史料調査・収集を重点的に行った。本年度も島根県立図書館郷土資料室で史料調査を複数回実施し、島根における商業活動・流通に関する史料の撮影・整理・翻刻作業等を行った。以上の調査で収集した史料・文献を読み込んで、出雲地方における木綿商人の活動や町方の商業政策の実態解明に向けた研究を進めた。また、出雲産品として木綿とともに重要な鉄に関する史料調査も前年度に引き続き実施した。鉄については奥出雲において史料調査を実施し、生産・流通に関する史料の撮影・整理・翻刻作業等を行った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 下向井紀彦	4. 巻 23
2. 論文標題 近世後期における雲伯木綿の上方輸送 三井越後屋を事例に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 前近代島根県域における環境と人間（島根県古代文化センター研究論集）	6. 最初と最後の頁 75-98
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下向井紀彦	4. 巻 52
2. 論文標題 三井越後屋の雲州買宿	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 三井文庫論叢	6. 最初と最後の頁 159-184
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下向井紀彦	4. 巻 51
2. 論文標題 18世紀における三井越後屋の宣伝広告：引札に関する基礎的研究	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 三井文庫論叢	6. 最初と最後の頁 231-302
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----